

# みずば

第3号

発行日 平成19年2月15日

発行 板倉町教育委員会 文化財保護係

T E L 0276 (82) 1111 内157

## 板倉らしい風景

人が感じられる風景は

あったかい

通り前橋を海老瀬（通り）から下五箇にお嫁に行ったおばあさんが歩いているのを見かけたことがあります。何とも言えないゆったりした時間でした。

平成18年12月、役場職員を対象にアンケート調査を実施し、「板倉町で、最も美しい（好きな）ところはどこですか。」の問いには、「谷田川」「利根川」「田園」「渡良瀬遊水地のヨシ原」があげられました。なかでも、谷田川（藤ノ木橋）からの眺めが最も多く、新緑や桜並木が美しいとあります。そのような中で、通りと下五箇を繋ぐ通り前橋がありました。

写真は、愛好家の方々に、好きな風景の写真をご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。なお『みずば』第3～5号に掲載していきます。



篠塚伸二郎

「橋から飛び降りて、遊んだな」  
「カタッケやシジミがたくさんとれたな」  
「澄んてたまのさ」  
「藻がいっぱいで舟が動かないほどだった」



篠塚伸二郎

「もぐり橋」「一本橋」などと  
呼ばれてどのくらいたつだろう。

## 通り前橋

私は、昭和33年に板倉東中学校に新任として赴任した。当時、部活動で、東中学校から、南中学校に練習試合に何度も行っただ。自転車で、谷田川を渡るのに、この不安定な木組みの橋を越えたものである。足の下から、ギシギシという音を聞きながら。今では、ほとんど使われていないが、四万十川の沈下橋を思わせ、菜の花の咲く頃は、一際、風情のある光景である。

(平成18年5月 宇治川哲也)



宇治川哲也



# 土地に刻まれた歴史

荒井 新一

## 行人沼に遺る杭列

「この杭は海老瀬の集落を守ったものだよ。」

下新田から上新田まで、行人沼の北側を通って、土手があり、その土手の補強材だと伝えられているとのこと。まさしく、土地に刻まれた、土地が語る歴史です。



荒井 新一

江戸時代から、この土地をみつめてきました。今から40年ぐらい前まで、ここで泳いでいる子どもたちがたくさんみられたものです。

八間樋堰

海老瀬の方から「昔、堤防は集落を守るためだったから、堤内とは集落側、堤外とは川側をさすけど、今は堤は川が決壊しないようにするものなんだよ。」と教わりました。そして「内郷」\*とは、堤で囲まれている地域だから、そう呼ばれていると話されました。

またしても先人たちの知恵をみた思いがします。

\*国道354号線の小保呂の信号から東側周辺



小暮 新八